

みんゆう 随想

自然の凄さに感動したのは白岩中の遠足で安達太良に登ったときでした。塩沢登山口からくろがね小屋を経て、馬の背に辿り着いたとき、初めて目にした大パノラマと噴火口の様子、植物が生息できない岩やガレ場の世界など45年前の体験が鮮明に思い浮かびます。

次の登山は学生時代に富士山（僭越ですが、妻の絹子との出逢い）と八ヶ岳に登りました。

25歳で現在の事業を始め、無我夢中で仕事に打ち込み、山のこととは何時しか忘れ掛け、26年間のブラン

渡辺 裕之

福島市・渡辺エンジニアリング
代表取締役



ク後、平成7年の月山で再び目覚め、百名山30座が終わったところで、東日本大震災に遭遇しました。

震災はたくさんの尊い命を奪いましたが、私は社屋の全壊などの被害を受けたものの、怪我一つなく五体満足で、不自由のない生活

は犠牲者の追悼の登山にしようと思いましたが、『日本百名山追悼登山』は31座から始まり、去る6月22日に登頂した両神山で57座達成しました。

信仰の山と云われる両神山は、追悼登山には格好の山で、私は神様や仏様のこ

山に魅せられて①

に憤りを感じるようになり、憤りを感じないようにしようとしました。

思い立ったのは先ず、復たのときは合掌して、震災の興事業に関する調査、測量、御霊を追悼し、残された人に設計業務に傾注し地域のた生を悔いなく精一杯生きよめに尽力すること。再エネうと祈願しました。

の場合には二拍手、仏像らしい丸太に馬乗りになっている丸太に馬乗りになつて、尺取り虫のように対岸に渡りました。清滝小屋で小休止し、岩場、鎖場、ハシゴのアップダウンを繰り返して容易には進めず、水に浸かったり、子どもころ

の研究、普及、事業化への推進。百名山は心身の鍛錬と目標達成への挑戦であり、近頃のアクセスは、中型のキャンピングカーがどうにか通れる幅の急傾斜で、行きます素晴らしい山でした。